

## ★インド

## 合繊設備

## Indo Rama、PTA工場を建設へ

インドの大手ポリエステルメーカーIndo Rama Synthetics (India)は、約450億ルピー（8.3億ドル）を投じ、今後3～4年以内にインド東部のTamil Nadu州に新たなPTA（高純度テレフタル酸）工場の建設を計画しているという。本工場は、既存のポリエステル工場に併設される予定である。

これまでポリエステル原料の調達先を国内外のPTAメーカーに頼っていたが、今回の投資により、PTAの自社調達を目指す。PTA工場の設備能力は年産125万トン。同社の昨年度のポリエステル生産は61万トンで、必要なPTAは52.1万トンであった。

同社は、現在、Maharashtra州Nagpur近郊のButibori郊外工業地区にポリエステル工場を所有しており、今後同工場で生産されるPTAは、Nagpur工場でも消費される。

Indoramaの第3四半期の業績は、売上高は70.3億ルピー（1.3億ドル）、純利益は1,830万ルピーとなった。

## ★欧州

## 繊維政策

## 欧州理事会、' Horizon 2020' の予算確保へ

欧州理事会はこのほど、EUが掲げる研究開発・イノベーションへの次期資金助成計画“ホライズン2020”プログラムへの予算を継続することで予算案を可決した。EU本部はこれを、“ヨーロッパのグローバルな競争力を確実にするための取り組み”としており、EU圏全体の成長、更に圏内における雇用の創出を促進するねらい。

当理事会において、各国の政府首脳は、EUの2014～20年の予算3%削減を可決する一方、経済促進の観点から、“ホライズン2020”の予算は確保することで合意した。具体的には、2014～2020年で800億ユーロ（680億ポンド）の予算を本プログラムに充てる予定である。

更に、理事会は、今回のホライズン2020と関連して行われるその他のプログラムにも特別な関心を払う、としており、それらのプログラムの目的を、地域的調査、及び能力開発を強化し貧困地域の技術的卓越性を後押しすること、としている。

こうした動きに対応して欧州織産連（EURATEX）は、繊維産業の研究開発強化を図るため、繊維系研究機関（European textile research and technology organizations : TEXTRANET）、繊維系大学（European textile universities : AUTEX）とともに、新たな組織であるTextile ETP（European Technology Platform for the Future of Textiles and

Clothing)を立ち上げることを明らかにした。今後、当局との必要な手続き、予算措置等を経て2～3か月以内に正式に活動が開始される予定。

## ☆ ロ シ ア

### **炭素繊維**

### **Dow Chemicals、ロシアで炭素繊維事業へ**

米 Dow Chemicals は、炭素繊維に係る合弁会社 DowAksa とロシア国営ナノテクノロジー企業 Rusnano およびロシアの複合材料企業 Holding Company Composites (HCC) と、ロシアで炭素繊維中間体および複合材料を生産するための包括的な戦略策定に向けた覚書を交わした。

これにより、Dow はロシア企業とともに、航空、インフラ、エネルギー、石油・ガス、輸送分野等において、ロシア市場と世界市場の双方に向けた商品供給を目指す方向である。

また、Dow は複合材料の生産に向けて、ロシアの Prepreg-ACM と Nanotechnology Center of Composite に対し、Rusnano と共同出資する可能性もあるという。

2011 年、Dow と Rusnano はエネルギー効率、インフラ、軽量化材料、ライフサイエンス分野で合弁会社設立の可能性を探り、覚書を交わしていた。関係者によると、地場企業との提携によって、DowAksa の能力を活用することで、Dow の専門知識を複合材料技術や成型などに活かし、市場についての知識も活かすことが可能になるという。

DowAksa は姉妹企業である Dow Europe とトルコにあるアクリル繊維メーカー Aksa が折半出資し設立した合弁企業。DowAksa は炭素繊維、炭素繊維中間体の製造にむけて自社技術を開発、2009 年に炭素繊維事業に参入した。

以上